

令和6年度第1回箕面山ニホンザル保護管理委員会 会議録

日 時：令和6年8月26日（月）

開会 午後14時00分 閉会 午後14時50分

場 所：箕面市役所別館6階会議室B（対面及びZoomでのWeb会議）

出席委員 金澤 忠博 会長

梅原 徹 委員

氏橋 亮介 委員

室山 泰之 委員

服部 博之 委員

田中 美玖 委員

森本 茂司 委員

事務局 大倉 三男 子ども未来創造局天然記念物室長

荒木 裕介 子ども未来創造局天然記念物室 野猿管理担当

岡本 和美 子ども未来創造局天然記念物室

光吉 智恵実 子ども未来創造局天然記念物室

傍聴者 1名

開会

（事務局）

箕面市役所子ども未来創造局天然記念物室の大倉です。いつもお世話になり、ありがとうございます。委員の皆様には、ご多忙のところご出席くださいましてありがとうございます。

本日は、金澤委員、氏橋委員、服部委員、田中委員、森本委員が対面、梅原委員と室山委員がオンライン参加となっております。全員にご出席いただいております。

また、先ほど委嘱書をお渡しいたしましたが、今年度は委員の改選がございました。最初に会長の選出をお願いします。会長は委員の互選により定めるとありますが、みなさん、ご意見ございますでしょうか。

もしなければ、金澤委員に引き続き会長をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

（異議なしの声あり）

ありがとうございます。それでは、金澤委員に会長をお願いしたいと思います。今回はじめて顔合わせとなりますので、金澤会長から順にご挨拶いただきたいと思います。

(自己紹介)

(会長)

それでは、会議を進めさせていただきます。最初に、「報告1 令和5年度事業報告」事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料別冊の「令和5年度天然記念物食害対策費国庫補助事業 天然記念物「箕面山サル生息地」のニホンザル集団保護管理調査報告書」の説明をさせていただきます。

1 ページ目は、ニホンザル集団の位置同定の状況になります。令和5年度も例年通り、秋以外の季節は安定して餌場へ入場しておりまして、秋8月から12月にかけては、入場しない日もあるような状況になっております。

表の上がF集団の餌場への入場状況、下がL集団の餌場への入場状況で、どちらの表も8月から12月にかけて入場していないのがわかります。

続きまして2 ページ目は、年間を通してF集団とL集団の遊動状況を示しているものです。地図の赤色がL集団の1～8月、オレンジ色が9～12月、青色がF集団の1～8月、緑色が9～12月です。木の実が豊富になってくる秋は、南北に遊動域が広がっている状況になっています。少し見難いんですが、点線で囲われた部分が準生息地です。F集団は箕面川ダム方面に行く傾向がみられます。

続きまして、3 ページ目はニホンザル集団の個体数の維持ということで、岡山理科大学の清水先生にご指導賜りながら、令和5年度のバースコントロールを実施いたしました。結果ですが、90頭を対象に実施しましたが、うち1頭が薬を吐き出すため実施できませんでした。

資料4～5 ページは個体別の投与状況で、F集団が46頭、L集団が44頭さきほど薬を吐き出したと説明しました個体は、5 ページの44番になります。×がついているものは、ピルを投与できなかったことをあらわしています。

資料6 ページから9 ページは、バースコントロールを実施した個体の写真を載せています。

10 ページ以降は、植生について令和6年2月に当委員会で、梅原委員にご説明いただいた資源調査の状況を掲載しております。以上です。

(会長)

この件に関しまして、何かご意見ご質問ございましたらお願いします。

写真についてですけれども、すべて名前がついていまして、顔を見ながらこの個体は投与したかどうかチェックしていくという、離れ業を行っています。現場の方々はすべて顔を覚えているということで、とても緻密でなかなかできることではありません。

先ほどの位置同定を見て判りますように、集団毎に遊動域がわかれているんですけれども、ちょうどその境目あたりに餌場があります。サル集団は反発しあうんですけれども、それをうまく1つの餌場で、自然では取れない餌を補給しながら今の状態を維持している。これは奇跡的な状況であると思います。

他にないようでしたら、次の報告について事務局お願いいたします。

(事務局)

それでは、資料3ページ「報告2 ニホンザル集団の遊動状況について」をご覧ください。こちらの表は、令和6年4月～6月の餌場への入場状況です。10時半、15時、16時にそれぞれF集団、L集団に給餌しています。4月～6月は、ほぼ毎日餌場に入場しています。

次に1枚もののカラー原稿をご覧ください。これはサルの生息地の地図内での4月～6月までの群れの遊動状況を緑色と赤色と橙色の点々で記載しています。緑色がF分派、赤色がL群、橙色がF群となっています。青色の破線が準生息地になりますが、緑色の分派群が天上ヶ岳方面に集まっており、準生息地を越えて、止々呂美方面へ行っている点が気になっています。

この地図も見ながら、市街地への出没状況について説明いたします。

資料4ページに市街地等への出没状況について、令和3年～令和6年までの4月～6月までの出没数を比較した表を記載しています。

表の一番右側に令和6年度の出没数を記載していますが、昨年度の出没合計が77回出没があったのに対し、今年度は277回と、約4倍の出没頻度がありました。

これは令和6年5月から、ドライブウェイで法面の工事が行われているせい、かほぼ毎日市民から市の方へ、ハナレザルの通報があったという状況でした。

特に多かった地域は、4ページの表に色をつけています。箕面1～8丁目は昨年度は1回だけだったのが、今年度は37回の出没がありました。オヶ原は昨年度が5回なのに対し、今年度は35回、如意谷地域では、昨年度は10回なのに対し、今年度は37回、あと箕面市の西エリアの桜ヶ丘、新稲という地域で、昨年度は1回なのに対し、今年度は7回、茨木市に近い栗生新家、小野原という地域でも出没がありました。

4月から6月にかけて市民からの通報がやみませんでしたので、室山委員に

ご指導いただきながら、ポイントを絞った上でサルの捕獲を行いました。

その結果、14頭を捕獲したところです。ただし、今も箕面8丁目には出沒している状況です。

この出沒に伴い、家庭菜園での細かい被害は掲載していませんが、補償の対象となったものについては、資料4ページの下の表にまとめています。

霊園で毎年被害がありますが、その他、下止々呂美で出荷用のモモであったり、箕面1丁目で民家の瓦被害、新稲でのとうろもこしの被害がありました。なお、現時点では市民からの通報はなくなっている状況です。

(会長)

ありがとうございました。この件に関して、何かご意見ご質問があればお願いいたします。

(事務局)

追加で、昨年度からご相談させていただいているF分派とL群の状況について、野猿担当職員から説明いたします。

(野猿管理担当)

F分派が昨年と同じ時期に比べると、餌場への入場率が高くなっています。

餌場から退場すると、ほぼ止々呂美のビワ畑に出沒するのが日常となっていますが、呼び込みに応じるなど、誘導は昨年よりもしやすくなっています。

また、L群も20～30匹ほど分派がいる状態となっています。GPSを見てもL群の中心は餌場に近いところにいますが、この分派が餌場から離れてしまっているという状況で、職員が毎日餌場への呼び込みを行っています。

(会長)

L群の分派は、今は餌場には一緒に入っているということですか。

(野猿管理担当)

合流はしていますが、朝は離れてしまうという状況です。

(会長)

ちょっといやな状況ですね。注視する必要があるかなと思います。土地に関して保守的なところがある動物なので、今いるところから少し離れるとおいしいものがあるという場合でもなければ行かないようなところがあるんですが、徐々に反発し合うようなことがあると、離れていくことがあります。職員の

日々の努力で奇跡的な状態になっているということですね。

(委員)

生息域がだんだん北の方にはみ出していつているという説明がありました
が、南を見ると生息域だがGPSであまり見られないというのは、何か原因や
考えられることがあるのでしょうか。もともと南の方に見られていたけれど
も、最近見られなくなったのか、最初から南側にはあまりいなかったのか、ど
うなのでしょう。

(事務局)

秋期以外は比較的、南北の遊動をしない状況になっています。

木の実が豊富な時期は、里の方まで来ている状況です。この時期に市街地に出
ているのは、群れから離れたサルです。

(会長)

残された自然の中で、将来的には「少ない頭数が自由に動き回って自然の餌
を主体に生息するという理想に向かって努力していく」というのが活動の目標
となっています。

それでは、次に「議案1 令和6年度バースコントロールについて」事務局
から説明をお願いします。

(事務局)

先ほど、金澤会長の方からご説明いただきましたが、ニホンザルの保護管理
計画では、令和17年度に生息頭数を「自然のものを食べて生きられるであろ
う100頭まで削減する。」というの目標を掲げています。

現在、約312頭生息しており、まだ目標には遠い状況です。

箕面市では、毎年年度初めにサルの状況を市長、副市長に報告しています。

資料6ページには、頭数の推移をグラフで記載していますが、令和6年度の
報告の際に、2016年の推定頭数が318頭で出産数が41頭。2024年
は推定頭数312頭で出産数が38頭、推定頭数がほぼ横ばいの状況になって
いることで「専門家のご意見を聞きながら、効果的な対策を行うこと」と指示
がありました。

これを受け、保護管理現場等で実際に指導をお願いしている箕面山ニホンザ
ル専門員に、先ずはすぐにできることとして、バースコントロールの頭数を増
やすことが可能かということを議論していただきました。

これまでバースコントロールを90頭で実施していましたが、産まれる子ど

もの数が多いため、対象頭数を増やしていきたいという相談をさせていただき、承認いただいたところで、本委員会において決定をお願いしたいと考えております。

6 ページ下の表は、メスのみの頭数で、F 群が 1 2 2 頭、F 分派が 2 8 頭、L 群が 1 1 6 頭で、全部で 2 6 6 頭います。

バースコントロールの対象個体の選定は「箕面山ニホンザルの避妊措置についてのガイドライン」に基づいており、この表の中でバースコントロールができる対象候補が 1 2 3 頭、これまではそのうち 9 0 頭をバースコントロールにかけていたんですが、2 0 頭増やして、1 1 0 頭にさせていただくという内容です。

(会長)

ありがとうございます。ちょっとここで、私が用意した資料を見ていただきたいと思います。2 0 0 3 年からバースコントロールをはじめていますけれども、頭数を予測しながら実施していくための資料として作成したものです。

図 1 には、バースコントロール対象個体数と予測出生数と実際の出生数です。計算式と比べて最近は少し多いということがグラフから見えてきました。ですから、今 1 1 0 頭に増やす必要があることの判断の根拠の 1 つということがあげられます。

図 2 には、箕面集団の出生率の年次変化とバースコントロール未実施の場合の予測出生率を記載しています。バースコントロールをすることによって今は出生率が低く抑えられているんですが、実施しなかった場合は、人工給餌を行っているということもあり、図 2 の四角で表したグラフのように 5 0 % 以上の出生率になってしまうというのが見てとれると思います。

対象を 1 1 0 頭に増やすことによって、どのような抑制効果が得られるのか、さらに数年かけて予測式の修正をかけながら計画的に進めていくことが必要です。それを含め、頭数を 2 0 頭増やして 1 1 0 頭にして実施するという案ですが、何かご意見ございますでしょうか。

(委員)

バースコントロールの個体数を増やすことは必要だとは思ったんですが、出生率の推移が 2 0 2 1 年から盛り返してしまっているのは、何か原因があるんでしょうか。頭数を増やした場合にも同じようなことが起こってしまった場合について何か議論はされているんでしょうか。

(会長)

複数の要因が考えられますが、隔年出産があるということで予測していたんですが、計算式通りにはなかなかいかないです。対象頭数を増やすということですが、実際に進めて行ったところで、対象頭数を増やさなくてもいいということになるかもしれませんが、そこは実施してデータをみながら行っていくということです。

(委員)

今回バースコントロールの頭数を増やすということで、今バースコントロールができる対象が123頭でそこから110頭する。仮に今回やることによってバースコントロールのガイドラインの見直しはされるのでしょうか。

(金澤会長)

何年か実施して、検証して見直すことがあるかと思います。

(金澤会長)

よろしいでしょうか。それでは今年度から頭数を増やして結果を注視しながら必要な対策を行っていくということで、ご了承いただいたということで、本件を承認することといたします。

他に何かありますでしょうか。

特にないようですので、以上をもちまして、令和6年度 第1回箕面山ニホンザル保護管理委員会を終了いたします。